令和５年度さいたま市立与野南中学校　学校だより
みなみかぜ
南風
第５号
令和５年７月21日発行
http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp
＜学校教育目標＞ 進んで学ぶ生徒　心豊かな生徒　心身共に健康な生徒

続・旅の楽しみ～修学旅行にて

校長　吉原誠士

今年度は新大阪駅を起点として見学スタートとなる修学旅行でした。大阪の街についての事前学習は司馬遼太郎の「城塞」を読んだ程度でしたが、車窓から伺える地名にある程度反応はできました。大阪城天守閣に設けられた博物館展示からは知識として秀吉・家康時代の城の規模が確認できますが、延々と続く駐車場までの道だけでも普通の広さではないことは体感できました。東西南北２ｋｍ以上の広がり、その外にまで押し出し疾駆する真田幸村。思い浮かべただけでワクワクします。また行きましょう。

２日目は奈良から次の宿泊地・京都に北上する班別行動になります。私は奈良にいる以上、興福寺国宝館の八部衆の拝観は欠かせないと考えています。阿修羅像はその中でも特に人気がありますが、私は他人（？）のようには見えない迦楼羅様も大好きです。来館者は少なくゆったりと面会を済ませることができました。その後、未だ工事中の東大寺戒壇堂から南大門近くの東大寺ミュージアムに場所を移して公開中の四天王像に会いに行きました。こちらも外すことはできません。

元の堂内と異なる横並びの展示で、後方からも拝することができます。前面からでも邪鬼を踏むポーズの自然さは、軸足に重心を乗せるための腰と全身のひねりによることがわかります。これに後面からの観察を加えると、無理のない体型に隠された骨格、その上に乗る筋肉の流れ、それらの絶妙なバランスが見て取れるのでした。解剖学的に人体を観察したのか、それともモデルの体型をそっくり型取りしたのか（ほぼ１／１の粘土製です）、奈良時代の仏師が造像する様子まで想像してしまいました。

どんなに事前学習や予習をしてあっても、いざ本番になってみると様々な発見があります。また、これまで何度となく関わっていたのに、新たな点に気付いて驚くこともあります。これらは旅だけではなく、日常の学習にもあてはまることかと思います。夏休み、私からの「五感を駆使しよう」「本物に触れよう」との主張は変わりません。今年は「知っているって高をくくらずにもう一度見直そう、学び直そう」を加えましょう。私は・・・今すぐにでも大阪、奈良、京都を再訪したい衝動に駆られています。

《 終業式から始業式に向かって 》

今年も凄まじい炎熱を感じる７月でしたね。近い将来、真夏は体育授業も部活も、それどころか外出も禁止！なんて世の中になるのではないかと心配になります。フィジカルもメンタルも健康に夏を乗り切ってください。さいたま市は夏の終わりを実感しながら８月に２学期を迎えます。そこから気分が重いのは大人たちも同じです。学期始まりに子どもたちが不調を訴えるようでしたら、遠慮なく相談ください。それではよい夏休みを！